

# 初任者としての1年を振り返って

秩父市立南小学校 教諭 飯塚由枝

---

## 1 はじめに

昨年4月、これから始まる生活に期待と不安でいっぱいの中、初任者として南小学校に赴任した。幸いにも、生まれ育った秩父市で、夢だった教師としての生活を始めることができ、大変嬉しく、また幸せなことでもあった。社会人としても教師としても1年目の私にとって、毎日が新鮮で特別な一年間だった。

## 2 学級経営、生徒指導の実践

「子どもたち全員に居場所があり、笑顔で過ごせる学級」を目指して取り組んで来たこの一年、そのために特に意識したことが2つある。

### (1) 子どもたち一人一人を褒めること

どんなに小さなことでもその場で褒め、全体の前でも褒めるようにした。振り返ってみると、一番大事で効果的だったように思う。また、子どもたち同士でも褒め合う時間をできるだけ多くとり、良い人間関係が築けるようにした。

### (2) 一緒の時間をたくさん過ごすこと

一緒に朝マラソンをしたり、業間休みや昼休みに外へ出て遊んだり、子どもたちとの時間を大事にしようと思った。そうすることで、マラソンに取り組む児童が増えたり、今頑張っていることや好きなこと、良いところなど、更に一人一人についてより多くのことを知ることができたりと、子どもたちの新しい一面を見ることができた。

## 3 おわりに

初めての学校で、学校・学年の行事等、次から次へとやってくるものをこなすことに精一杯だったが、校長先生をはじめとする南小の先生方、拠点校指導の先生、保護者の方々に支えていただき、一つ一つ乗り越えることができた。今、私が教師という仕事に就けてよかったと思えるのは、周りの方々が初任者である私を受け入れ、あたたかく見守っていただいたからであり、心から感謝している。また、1年間一緒に過ごしてきた2年2組の子どもたちにも、ありがとうと伝えたい。

来年度以降も、初めて教壇に立ったときの気持ちを忘れず、人として、教師として、成長していきたいと思う。指導していただいたことを今後に生かし、また子どもたちと共に頑張っていきたい。

# 初任者としての1年を振り返って

秩父市立尾田蒔小学校 教諭 北原 直

## 1 はじめに

早いもので、初任者として尾田蒔小学校に着任してから一年が過ぎようとしている。始業式で子どもたちに初めて出会った日のことはよく覚えている。子どもたちが「このクラスで良かった」と思えるような学級経営をしていきたいと誓った。と同時に、毎日が初めてのことだらけで、戸惑うことも多く大変なこともあったが、周りの先生方に助けていただき乗り越えることができた。

## 2 教科指導について

子どもたちが「わかった」と思えるような授業を心がけてきた。最初に気づいたことは、子どもたちへの発問や指示の一言一言がとても重要であるということだ。初めは、指示がうまく出せないために子どもたちが戸惑ってしまうことが多々あった。どのような指示が子どもたちにとって分かりやすいかを常に考えることが大切だと感じた。

また、子どもたちが自分から「知りたい。」「調べてみたい。」「できるようになりたい。」と思い、教師が一方的に教えこむのではなく、積極的に取り組む授業をすることが重要であると感じた。そのためには、教材研究がとても大切であると学んだ。さらに学級の子どもたちの実態を考えて、このときにはどんな反応をするか、どんな考えをもつかということまで思いめぐらせるようにしていきたい。



## 3 生徒指導について

学級経営では、初めは思うようにできず戸惑ってしまうことも多く、自信を失うこともあった。しかし、周りの先生方の児童への関わり方の中から、自分にもできることを少しずつ取り入れていくと、学級の様子に少しずつ変化がみられるようになった。

学級経営で一番大切なことは、とにかく子どもと関わることだと感じた。子どもとの会話や活動の中で、子どもの理解がより深まる。友達に親切にする児童、思いもよらないところで力を発揮する児童など、授業中には見られない顔を児童はたくさん見せる。児童一人一人の個性を大切にクラスをまとめられるよう努めていきたい。

## 4 おわりに

一年を振り返ると、本当に毎日が学びの連続であった。もちろん楽しい日だけではなく、ときには立ち止まりそうになってしまう日もあった。しかし、そんな時、自分を奮い立たせてくれたのは子どもたちの笑顔と明るい声であった。児童や保護者、地域の方や先生方に支えられていることを胸に、これからも謙虚な姿勢を忘れず、学び続けていきたい。

# 初任者としての1年を振り返って

## 秩父市立尾田蒔小学校 教諭 杉田友里奈

### 1 はじめに

4月から初任者として尾田蒔小学校へ赴任し、早くも1年が過ぎようとしている。小学2年生から教師を志した私が初めて担任した学級は、2年2組だった。4月8日、22名の子どもたちの可愛い笑顔の前に、嬉しさと同時に責任の重さや不安を感じたことを覚えている。初めての学級担任は、戸惑うことも多くあった。しかし、子どもたちの笑顔や、保護者の方々、先輩の先生方のご指導や励ましの言葉に支えられ、学ぶことの多い充実した1年を送ることができた。

### 2 教科指導

子どもたちにとってわかりやすい授業、楽しいと思える授業を目指し取り組んできた。2年生の子どもたちにとって、どのような言葉で伝えることがわかりやすいのか、どのような活動をするより理解が深まるのかと試行錯誤する毎日だったが、うまくいかないことも多く、子どもたちの反応に自分の無力さを思い知らされることも多くあった。

学校研修では、先輩の先生方にたくさんの示範授業を参観させていただいた。どれも魅力的な授業ばかりで、子どもたちが楽しそうに学ぶ姿が印象的だった。先生方の授業の中には、活動や発問の仕方など、様々な工夫が詰まっていた。学んだことを生かし、このような魅力ある授業ができる教師になっていきたい。



### 3 学級経営

「子どもたちが居場所を見つけることができる。」そんな学級を目指し、取り組んできた。そのためには、まず、担任として子ども一人一人を知ることが大切だと考え、休み時間や給食中の会話、日記など、コミュニケーションをとることを心がけた。また、子どもたちがお互いを認め合えることも大切だと考え、その環境作りに努めた。

子どもたちと過ごす中で、改めて子どもたち一人一人を理解することは難しいことであると感じた。だからこそ、いつでも子どもに寄り添い、共に考える続けることが大切なのだと学んだ。まだまだ力不足で、先輩の先生方のような指導はできず試行錯誤の日々だが、引き続き笑顔を決やさず学び続けていきたい。

### 4 おわりに

この1年間、思い返すと本当にいろいろなことがあった。4月、空っぽで引き継いだ机や教室は今、たくさんの物で溢れている。これらの物の中には、子どもたちと共に必死になって汗を流し、涙を流し、喜び、笑った1年間が詰まっており、見渡せば様々な思い出がよみがえってくる。

このような充実した日々を送れたのも、尾田蒔小学校の先生方や、子どもたち、保護者・地域の方々など、多くの人の支えがあったからだと思う。この1年間、たくさんの人々の支えの元に学ばせていただいたことを糧に、謙虚な姿勢を忘れず、日々研鑽に励んでいきたい。

# 初任者としての1年を振り返って

## 秩父市立原谷小学校 教諭 山中いずみ

---

### 1 はじめに

原谷小学校に着任し、気が付けば一年が過ぎようとしています。臨時的任用教員として、いくつかの小学校で数年間経験を積んできましたが、この4月新規採用として教室に入った時は、これまでにない緊張をおぼえたことを思い出します。この一年間、子どもたちのきらきらした瞳に出会い、また、多くの先生方にご指導いただき、様々なことを学ぶことができました。私にとってたいへん充実した一年を過ごすことができました。

### 2 教育指導

小学校ではほとんどの教科を一人で指導しなければなりません。充実・やりがいを感じながらもその責任の重大さも感じてそんな中で、機関研修や他の先生方の授業の様子や指導方法を拝見させていただく機会を得られたことは大変勉強になりました。45分という限られた時間の中で、いかに子どもたちの興味や関心を引き付け、好奇心を伸ばしていくために、話し方、問いかけ、教材の使い方など、自分の授業の進め方の参考となることを数多く学ぶことができました。

毎日の授業は、単なる繰り返しではなく、子どもたちにとって貴重な人生の1ページになるものだということを認識するとともに、子どもたちが「わかる」＝「楽しい」ということを意識しながら授業を進められるよう努力していきたいと思っています。

### 3 学級経営

この一年間、最も苦勞したのが学級経営でした。一学年で複数のクラスがある学校は初めてであり、比較対象があることに不安と重圧を感じていました。そんな中でも諸先生方の温かいご指導により何とか一年間を過ごすことができました。そして何より、子どもたちの「できたよ!」「先生、これ何?」といった純粋な反応にたくさん助けられたことに気づかされた一年でもありました。私の至らない授業に反応してくれた子どもたち、受け入れてくださった保護者の皆様、また、時には厳しく指導していただいた先生方に、どれほど助けられたかは言葉では言い表せません。

様々なことを私自身が学び、児童たちの実態、反応を見ながら問いかけや活動内容を工夫していくことを学ぶことができました。

### 4 おわりに

子どもの頃に出会った先生に憧れ、「あの先生みたいになりたい。」と、教員を目指しました。やっと夢だった教員になり、本当にうれしく思っています。これからも初心を忘れず、教員という仕事の楽しさを教えてくれた子どもたちに感謝するとともに、教員という仕事が子どもたちの憧れになるよう、子どもたちの目線に立った教師でありたいと思います。また、時には厳しく、時には温かくご指導いただいた校長先生、教頭先生、主幹教諭、学年主任の先生をはじめとする原谷小学校の先生方、本当にありがとうございました。

# 初任者としての1年を振り返って

秩父市立影森小学校 教諭 島貫沙弥香

## 1 教材研究の大切さ

初任者としての1年を振り返ると「とにかく何でもやってみる」という一年でした。授業に関しては、最初はどのように組み立ててよいのか分からず、先生方に聞いてみて、真似をしてみると、試行錯誤の繰り返しでした。いざ、授業をしてみると、あまり手が挙がらず、自分自身の発問の仕方や、指示の不十分さで自分の力のなさを感じることも多くありました。そこで、初任者指導の先生から「この単元で何を子どもたちに身につけさせたいか」を考えて授業を組み立てるとよいという言葉をいただいて、授業を見直しました。児童にどのように、そして何を使って授業をしたら力が身につくのかを基に、効果的な資料、写真やツールを工夫して考えました。そうすることで、少しずつですが授業の骨格がはっきり組み立てられるようになり、教材研究の大切さを実感しました。また、活発な授業をするために児童一人一人を理解することの大切さを感じました。最初の頃、児童の手があまり挙がらず不安でしたが、子どもとふれあい、共に活動することで一人一人の性格を理解しました。その上で、主体的に授業に参加できる雰囲気をつくるように心掛けました。すると、進んで発表したり、周りの友だちに教えたりと学び合う姿勢ができるようになりました。しかし、まだまだ課題があります。45分間を大切に、より一層の教材研究に励みたいと思います。今は、授業をすることがとても楽しいです。児童からも、「授業が楽しい！もっと学びたい！」と声がるような魅力ある授業を展開していきたいです。



## 2 常に笑顔で！

ある日、「先生、どうしたの？」と児童に尋ねられたことがありました。私自身、普段と変わらない顔をして教室に入ってきたつもりでしたが、児童は敏感で少しの変化でも気付くことに驚かされました。児童に気付かれたことを反省し、私から児童の変化に気づき、気持ちを考えられる教師でありたいと強く思いました。そのために、学年主任の先生から教えていただいた「常に笑顔！」という言葉を大事にしています。笑顔で児童に接し、温かい雰囲気の中で児童が話しやすい居場所づくりを心掛けてきました。2学期の終業式の日、学級の色々な児童が「ありがとうございました。3学期もよろしくお願ひします。」と最高の笑顔で言ってくれました。このとき、笑顔っていいものだなとあらためて感じ、私自身も笑顔でいることが児童にとってよい影響や環境をつくるのだと感じました。そして、保護者の方々から「子どもが相談しやすいみたいです。」という嬉しい言葉や、感謝の言葉をいただきました。私自身まだまだ至らない点が多いのですが、1年間支えてくださった先生方、たくさん協力してくださった保護者の皆様に恩返しができるよう、常に笑顔を忘れず、児童と共に成長し、更に学び続け、研修と修養に励んでいきたいと思ひます。

# 初任者としての1年を振り返って

秩父市立荒川東小校 教諭 小林弘和

## 1 はじめに

荒川東小学校での1年が過ぎようとしている。エコハイキング、宿泊学習、算数科授業研究、運動会、秩父地区音楽会など、度重なる学校行事があった。この1年間で、多くの経験を積むことができ、とても充実した1年を過ごすことができたと感じる。何より、荒川東小学校の子どもたちに出会えたことを一番の幸せと感じている。

## 2 教科指導

子どもに「わかる・できる」を実感させる授業を行うため、初任者研修や教材研究を通して自己研鑽を重ね授業改善していくことを心がけ、日々の授業に取り組んだ。しかし、それだけではうまくいかなかった。クラスの実態に即した授業を考えていくことをおろそかにしてしまうことが多く、子どもと一緒に授業を深めていけなかったと反省ばかりであった。子どもは、教科等の好き嫌い、興味関心、取り組み方など様々である。その一つ一つへの関わり、問題や課題の解決の指導や支援、全てが子ども理解の機会でもある。授業を通して子どものことを理解し、子どもが自分自身の目標やめあてに向かって自己実現できるような関わりができるようになりたいと思う。また、ことあるごとにアドバイスや悩みを解決してくれる先輩教員の支えがあってこそ、自分自身の指導を振り返ることができていると思う。自分一人でやろうとせず、頼りになる先輩教員と一緒に子どもたちを成長していくことが、自分自身の成長につながると信じ、これからの指導に活かそうと思う。

## 3 学級経営

「全ての子にとって居心地の良い学級」を経営方針の一つとして、温かく思いやりのある学級を目指し取り組んでいった。1年目は、積極的に子どもと関わり、一人一人の子どもを理解すること、保護者のねがいを知ること、荒川地域を知ることなどに努めた。休み時間の会話や週末の日記を通して、今まで知らなかった新たな一面を発見することができ、広い視野で子どもを見ていくことができた。しかし、指導がうまくいかないとき、失敗する 때가数多くあった。やはり、人が人を教育することは、とても難しいことだと思った。人間性を磨き、教育技術を磨き、それでも難しいけれど、子どもが成長していく姿を間近で見られることにやりがいを感じている。

## 4 おわりに

初任者としての1年で、教員としてとても大切なものを学ぶことができたと思う。子どもを褒めて伸ばすこと、子どもの話を聞き本音を受け止めること、笑顔で接することなど、これからの教員人生において忘れず大切にしていきたい。終わりに、本研修を進めるに当たり、懇切丁寧なご指導をいただきました校長先生をはじめ多くの先生方に心から感謝申し上げます。



# 初任者としての1年を振り返って

秩父市立秩父第一中学校 教諭 岡田真弘

## 1 はじめに

平成26年4月、中学生の頃からの夢である中学校教師としての生活が始まりました。赴任先は、母校である秩父市立秩父第一中学校でした。期待よりも多くの不安を抱えながら教員生活が始まったことを今でも覚えています。初任校から母校という恵まれた環境の中で、多くの先生方にご指導いただくとともに支えていただき、一年間が過ぎようとしています。

## 2 教科指導

生徒に数学の楽しさや良さを実感できる授業がしたいと思い、日々授業に取り組みました。しかし、現実には甘くなく、思い通りにいかない日々が続きました。最初は、生徒の考えをうまく引き出すことができないことが多くありましたが、多くの先生方からアドバイスをいただき、初心に立ち返り、もう一度、授業を組み立てていくことにしました。教えたことは徹底して教え、考えさせる場面では十分な時間を取ることを心がけ、少しずつ改善されていきました。授業は何より生徒との信頼関係が重要であることを改めて実感しました。私は、今後も自身が常に学ぶ姿勢を持ち続け、生徒の心に届く教育指導の実践をしていきたい。

## 3 生徒指導

私にとって一番の課題は生徒指導でした。どのように生徒と接していったらいいのか……。考えさせられることが多かったように思います。様々な課題に対応していく中で、多くの先輩方の指導の仕方や対応を学び、徐々に気持ちに余裕をもてるようになってきました。休み時間や昼休みには、できるだけ生徒と会話することを心がけたことにより、生徒を理解し、生徒と同じ目線で接していくことができるようになりました。学校にはまだまだ様々な問題がありますが、先輩の先生方と協力し合い、生徒がよりよい方向へと歩んでいける声かけをしていきたいと思っています。

## 4 部活動指導

生徒たちが柔道部に入部して大きく成長することができました。仲間と支え合いながら乗り越えていくことの大切さを学ぶことができました。『もうこれ以上はできない。頑張りきれた。』三年生が最後の試合で引退するときにそう思ってもらえるような部活動がしたい。」と生徒たちに話をし、部活指導がスタートしました。伝統ある秩父一中の柔道部の顧問になったことへの期待と不安、自分自身が育ったこの柔道部に恩返しできることへの嬉しさ、たくさんの感情がこみ上げたことを今でも覚えています。多くの課題が見えてくる中で、恩師である逸見和弘先生を中心とする専門部の先生方や外部コーチである岩崎正憲先生、保護者の協力の下、指導にあたることができました。これからも率先垂範し、生徒たちと真正面から向き合いながら、学校をよりよい方向に引っ張っていける柔道部にしていきたいと思っています。

## 5 おわりに

私にとって忙しい一年でありましたが今振り返ってみると充実した日々を過ごすことができましたように思います。この一年で学んだことを生かし生徒や支えてくれている先生方への感謝を忘れず生徒とともに自分自身も大きく成長し誰からも信頼される教師になっていきたいと思っています。

# 初任者としての1年を振り返って

秩父市立秩父第一中学校 教諭 町田翔平

## 1 はじめに

2014年4月、初任者として秩父市立秩父第一中学校に着任し、早くも1年が過ぎようとしている。この1年は臨時的任用であったときとは違う、内容の濃い1年であった。初めて経験することばかりで壁にぶつかることも少なくなかったが、その度に先輩の先生方に温かいご指導をいただき乗り越えることができた。

## 2 学級経営について

初めてクラスを担任するという期待と学級経営に対しての不安をもったままスタートした。「しっかりとさせなければいけない」という意識から、生徒の悪いところばかりに目が行き、良いところを認めて褒めてあげることがなかなかできなかった。ある生徒に「怒ってばかりいる」と言われて、笑顔でいる時間が短くなっていることに気づき、それからは「悪いところばかり見ないこと」と「良いところは褒めていき、悪いことはしっかり叱ること」ことを意識した。意識していくことによって、その生徒との関係も少しずつ改善していき、笑顔でいる時間も増えてきたように思う。

今年度、様々なことがあったが、文化合唱祭のことが最も印象に残っている。「みんなで楽しく 仲良く」をスローガンにしたが、なかなかクラスの全員がまとまらず、練習に集中できないことや生徒どうしが衝突することもあった。学級活動の時間に本番に向けてどう取り組んでいくかを話し合っ改善していき、本番では入賞はしなかったが立派な発表ができた。来年度は、入賞できるように行事に一生懸命に取り組んでいき、生徒たちが活躍できるようにしていきたい。



## 3 教科指導について

前年度までに経験してきたことを生かして「学ぶ喜びを伝える授業」を目指したが、うまくいかないことが多く、反省の日々であった。演示実験を行う際にどこに注目したらいいのか、実験の結果から何を学んでほしいのかを、明確にすることを心掛けることで、少しずつ改善することができた。また、先輩の先生の授業を参観させていただいたりすることで、指導技術を学ぶことができた。理科のおもしろさを伝え、理科が好きな生徒を増やせるように、絶えずに研究と修養に励んでいきたい。

## 4 部活動指導について

前年度から引き続いてソフトテニス部を担当することになり、日々指導にあたった。経験豊富な鈴木先生から多くのことを学ぶことができた。日頃からの鈴木先生のような姿をみて、自分の指導力との差に悩むこともあったが、「今、自分にできること」に集中しようと心に決め、生徒ともに一生懸命に取り組んできた。テニスだけでなく勉強や生活態度から意識を高め、支えてくださっている周りの方々に応援される部活動を目指し、秩父一中テニス部に関わった人たちが築いてきた伝統と誇りを受け継ぎ、学校総合体育大会の連覇を継続していきたい。

## 5 おわりに

ご指導くださった諸先生方のおかげで、なんとか一年を過ごすことができた。多くの出会いに恵まれ、少しずつではあるが成長することができたと思う。諸先生方に感謝を申し上げるとともに、人と人との縁を大事にしていき、生徒一人一人のよさを伸ばして力を高めることができる教師になるように、日々の努力を積み重ねていきたい。